



# 漁協通信

VOL. 8  
H22. 9. 27 発行



(携帯QRコード)

大井川(非)漁業協同組合  
島田市中溝4丁目2-5  
TEL (0547) 37-3048  
FAX (0547) 37-3192

## 釣果を競う！

カラー版はHP上でもご確認いただけます。

組合が共催し、1回の延期を経て行われた第57回静岡県あゆ友釣競技選手権大会。選手たちは、所属する組合の期待を担い、思い思いのポイントを狙って熱く釣果に挑みました。



↑県大会当日の様子（7月25日）

ちなみに、今回出場の大井川Aチームは宮脇政一、杉本和美、塚本俊之、白幡光明、宮地靖広（敬称略、年齢順）の5名。Bチームも団体10位、個人の部では山本繁樹氏が13位と健闘を見せました。

個人の部での優勝は幡野泰典氏（狩野川漁協）、次いで島崎衛氏（河津川漁協）、大物賞は67グラムを釣り上げた竹内錦一氏（気田川漁協）でした。当日の成績は下記のとおりです。

## 大井川A、僅差で連覇逸す

数日來の晴天続きで水量が比較的少なく、難しいコンディションとなった伊久美川。加えて近年にない猛暑も重なり、7月25日（日）の大会は厳しい環境の中に行われました。

しかし参加した23チーム・115名の選手たちは、懸命に川面に向かって狙いのポイントを定め、団体・個人の各所で釣果を競い合いました。その結果、団体の部では古豪安倍藁科川チームが通算19回目の優勝を果たし、昨年度河津川で優勝した大井川チームは、総重量でトップに僅か6グラム及ばず、2連覇の夢は残念ながら潰えました。



↑優勝した安倍藁科川チーム

### (団体の部)

順位	漁協名	重量(g)	尾数
1	安倍藁科川	1,438	43
2	大井川A	1,432	41
3	河津川	1,270	37
4	狩野川	1,210	40
5	天竜川	1,190	43
6	那賀川	1,143	37
7	気田川	1,106	37
8	新大井川	986	25
9	興津川	968	30
10	大井川B	960	31

### (個人の部)

順位	氏名(漁協名)	年齢	重量(g)	尾数
1	幡野泰典(狩野川)	43	536	19
2	島崎 衛(河津川)	51	444	13
3	鈴木幹弘(興津川)	49	402	14
4	萩原昭夫(安倍藁科川)	55	396	12
5	杉本和美(大井川A)	61	392	10
6	鈴木正義(天竜川)	61	388	14
7	秋山昌己(安倍藁科川)	50	344	9
8	竹内錦一(気田川)	47	324	8
9	山崎正和(那賀川)	81	318	12
10	耳塚 功(水窪川)	42	304	10

開催漁協は2チーム出場しています。

# マイスター(名人)になろう

## -大井川「川まつり」-

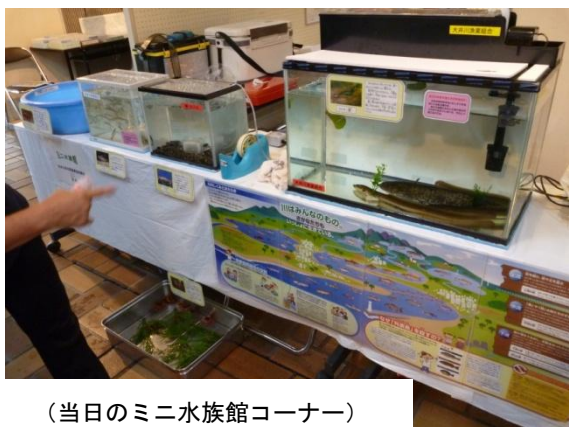
今年で第12回を迎えるこの催しは、大井川の歴史や文化、多様な動植物と環境、そして水利用や発電などについて子ども達の理解や関心を深めようと、去る8月20日(金)島田土木事務所主催のもと、プラザおおりを会場に開催されました。

“わたしたちの暮らしと大井川は深い係わりがあることを知ってる?”



↑興味深く覗きこむ子供たち

この共通テーマをもとに、大井川流域の5市町と国交省、また大井川と係わりが深い各種団体が協力し、それぞれ趣向を凝らした実験や展示を中心に会場には12個のブースが設けられ、終日多くの親子連れが訪れては真剣な表情で見学・体験をしていました。



(当日のミニ水族館コーナー)

## 組合ではミニ水族館を

今年も「ミニ水族館」と題して4個の水槽に、大井川に生息するアユ・アマゴ・オイカワ・ウナギ・ヨシノボリ・カワムツ…など約20種類を放して展示しました。

中でも、絶滅危惧種のカマキリ(アユカケ)や偶然採捕されたナマズの赤ちゃんは、珍しさから多くの人が目を止め、魚たちが気持ちよく泳ぐ姿を覗き込みながら、子ども達は係の説明を真剣に聞き入っていました。

会場にはこのほかにも、島田土木事務所の「雲を作る実験」や「連台越し体験」、中部電力のうちわを使った手動の「風力発電」など、多彩なメニューで子ども達の興味を惹きつけました。



ザリガニに興味津々→

## いきいき学習

-島田3小の子供たち-

3年生の総合学習の一環として、大井川流域に生息する魚や植物、自然を育む川の役割について理解を深めようと、1学期に事前学習と体験学習の2回が実施されました。

5月17日の第1回目は、南町の中村恵佑さんから、大井川上・中・下流の水質によって生息する魚の違い、魚釣りの仕方や川遊びの注意などについて話を聞いたり質問をするなど、活発な学習が行われました。

6月7日の第2回目は、講師に組合員岡寄實さんも加わって伊久美小学校裏の伊久美川に学習の場を移し、希望に応じて「魚と水」、「水生植物」、「石」の3グループに分かれました。そして、今まで学習した内容を確認したり、さらにもう一步追求してみたりなど、前回同様、適切な指導のもと水生動植物の観察、水温・水質の調査などの観察や調べ学習が進められ、貴重な川体験の1日を過ごしました。





# 「中止」 苦渋の選択でした…

—地区対抗・関係会社親睦あゆみ釣り競技大会—

大会予定日の9月11日に果たして本流で実施できるのか…。

猛暑の8月中旬、大会準備を前にして“少しも釣れない”“釣り人が少ない”…と、組合に寄せられる声を裏付けるように、“ハミ跡が見られない”“釣りのポイントが少ない”“青藻が見られ釣りにくい”などの河川環境、鮎の動体などについて役員や監視員から集められた情報が、判断を一層難しくしていました。



↑6月の相賀谷川付近。例年に比べ釣り人もまばら

そこで実態を把握するため、9月第1週に神座水路橋～第2東名・国1バイパスの間を役員・有志組合員数名に依頼し、川の状況調査と試し釣りをさせていただきました。しかし、入ってくる情報は釣り人たちの声を実証するものばかりでした。

この経緯を踏まえ、組合としての最終判断をするため、9月8日（水）に緊急理事会を開催。

協議の結果、『現在では参加選手が望む釣果は得られそうにないし、また、仮に開催日時を先延ばしても必ずしも正解は得られないかもしれない』として、やむなく中止を決めさせていただきました。

## ■ その後の対応

組合としては、中止に至った要因、即ち河道の形状・河床や土砂の状態・遡上量を含めた鮎の動態・汚濁水等での水生植物の付着状況などを追及し、今後の対応を検討しなければなりません。

そこで、この理事会で検討されたいくつかの諸問題や課題を各理事が手分けして究明していくことになりました。

この結果については、解明を待って後日報告いたします。総代の皆様のご意見やお考え等もお聞かせいただければ誠に幸甚です。

## 《今年の降雨量データから見た大井川》

本年は数年来の異常気象と言われ、さまざまな影響があらゆる方面から叫ばれています。

その仲間に、もちろん大井川も類に漏れず。その原因を大井川上流の降雨量データから見てみましょう。

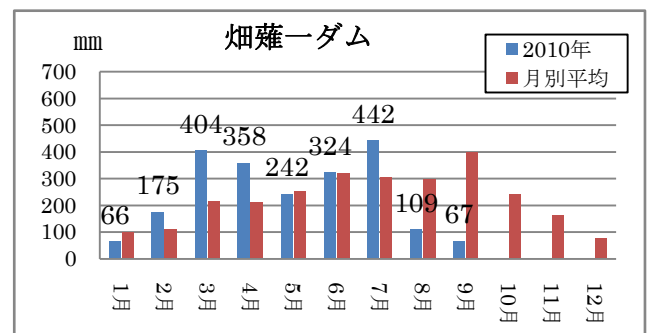
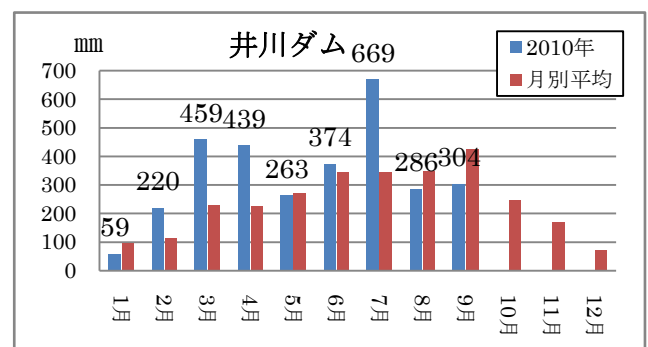
本年のデータを見るとまず2月下旬～4月の降雨量の異常さがわかります。この鮎遡上期に例年の2倍近くの雨が降り続き、長期間にわたる異常な降雨とその濁水により稚鮎は川に入れずに群れとなって河口に留まり、遡上期間もずれ込んで遅れるなど、天然遡上に大きく影響を及ぼしました。

5月には通常の降雨量に近づき、好条件を縫うように放流も行い、かろうじて遡上した稚鮎の成長を促すことができたと推測されますが、入梅後には再び梅雨前線に伴う降雨や局所雨によって、本流の濁りが8月上旬まで絶え間なく続くこととなり、本流の鮎の成長が心配される状態が続きました。そして現在は、危惧された通り豊富な鮎を確認するには至っていませんが、その分まずまずの良型が出ています。

『利水と釣り、異常気象の中で共存はできないのか…？』

そんな課題を残しながら、シーズン後半、本流の釣りが少しでも長く楽しめるのを期待するばかりです。

(9月14日までの降雨データ) 提供：中部電力㈱



## 大井川の水質やや向上

—昨年84位から44位に躍進—

去る7月29日に国土交通省が発表した昨年度の全国一級河川水質調査によりますと、調査対象になった県内6河川で、最も水質が良いとされたのは今回も安倍川でした。

安倍川は全国165河川の調査の中で、08年の22位から17位へと5位上昇しました。さらに調査地点のうち2地点は『泳ぎたいと思うきれいな川』と判定されました。

県内の他河川では、狩野川36位、菊川81位、天竜川111位、牛淵川156位となりました。

全国では、尻淵川・後志利別（北海道）、姫川（新潟）、黒部川（富山）、宮川（三重）、川辺川（熊本）が上位を占めています。大井川漁場管理運営協議会

## 多摩川

今年の4倍、196万尾遡上

東京と神奈川の都県境を流れる多摩川で、今年の鮎の遡上量（推定）が国土交通省の調査でわかりました。

2006年の調査開始以来、07年の140万尾を上回り、最多となりました。47万尾だった昨年の約4倍に増えたこととなり、国土交通省では水質改善に加え、魚道の設置が進んだことなどで、住みやすい環境に回復しつつあるのではとしています。

## 漁業日数の報告について

昨年行った組合員全員への漁業日数の聴取について、本年も同様に行ないます。

また、総代の皆様には漁業日誌の提出もお願いしていますので、準備をお願いします。

<期日> 12月28日（火）



↑第2東名橋から見た大井川（6月）

## 5月～9月 業務報告



- 6/1 大井川本流あゆ漁解禁  
役員等の違法漁業監視開始（鍋島～川口）
- 6/2～10  
県大会開催にあたり関係機関と打合せ
- /7 第3小「いきいき学習」川体験（伊久美川）
- /11 鮎放流 300 kg（本流、大代川）
- /17 県大会会場草刈り・整地作業
- /21 伊久美川あゆ漁解禁
- /25 あまご放流 6,000 尾（伊久美川、大平川外）
- /27 県大会用成魚放流 300 kg（伊久美川）
- 7/3 県大会本部設営及び整地作業
- /4 県大会中止に伴う緊急連絡及び撤去作業
- /9 鮎放流 200 kg（伊久美川）
- /24 県大会本部設営・周辺整備作業
- /25 第57回県あゆ友釣競技選手権大会開催
- 8/3 企画運営会議（地区対抗について外）
- /13～16 夏季休業
- /17 大井川川まつり準備
- /20 第12回大井川「川まつり」（プラザおおるり）
- /30 川口取水口工事打合せ
- 9/1 網漁解禁。漁場監視強化日
- /6 地区大会について緊急討議
- /8 緊急役員会（地区対抗大会開催について）
- /14 監事会開催（平成22年度上期会計監査）
- /27 漁協通信8号発行

## ご投稿のお願い

お待ちしております！！

組合運営に対するご意見やご感想、  
また日頃作られた俳句や短歌、  
エッセイなども大歓迎です。

この漁協通信を組合員の皆様  
と一緒に作っていきたく思  
っていますので、お気軽に  
お寄せ下さい。（小林）



